

福島第一原子力発電所の状況

平成 25 年 9 月 30 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (9/30 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉圧力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*1	原子炉格納容器 水素濃度	
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.0m ³ /h	31.6	106.8 kPa abs	A系：	0.03 vol%
		給水系：約 2.5 m ³ /h			B系：	0.10 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 3.4 m ³ /h	42.3	6.62 kPa g	A系：	0.04 vol%
		給水系：約 1.8 m ³ /h			B系：	0.05 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 3.4 m ³ /h	42.0	0.24 kPa g	A系：	0.09 vol%
		給水系：約 1.8m ³ /h			B系：	0.11 vol%

*1: 絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

・H25/9/20 ~ 2号機サプレッションチェンバ(S/C)内の水位測定についてロボットによる実証試験を開始。9/24 水位測定を実施。現在水位データについて評価中。

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (9/30 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	25.0
2号機	循環冷却システム	停止中	22.7
3号機	循環冷却システム	運転中	23.4
4号機	循環冷却システム	運転中	30

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘイドラジンの注入を適宜実施。

・9/24 6:36 ~ 9/27 14:39 3号機使用済燃料プール代替冷却系について、同系統の瞬時電圧低下対策工事に伴い停止。起動時のプール水温は 31.0 。

・9/30 6:27 ~ 2号機使用済燃料プール代替冷却系について、同系統の瞬時電圧低下対策工事に伴い停止。冷却停止時のプール水温は 22.3 。10/4 まで停止(約 107 時間)予定。なお、冷却系停止時のプール水温度上昇率評価値は 0.172 /h で、停止中のプール水温上昇は約 19 と評価されることから、運転上の制限値(65)に対して余裕があり、使用済燃料プール水温管理上の問題はない。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
1号機	1号機 タービン建屋	1号機廃棄物処理建屋	9/30 10:20 ~ 移送実施中
2号機	2号機 タービン建屋	3号機タービン建屋	9/24 9:56 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物 減容処理建屋[高温焼却炉建屋])	9/24 10:22 ~ 移送実施中

7/16 13:00 ~ 5, 6号機屋外の仮設タンク(9基)には、震災時に5, 6号機各建屋に流入した海水および地下水(メガフロート水)を貯蔵しているが、本仮設タンク水を5, 6号機タービン建屋滞留水と同様に淡水化处理(RO)を行うため、6号機北側にあるFエリアタンクへ移送を開始。

< 4 . 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (9/30 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設備 (ALPS)
運転 状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	C系ホット 試験実施中

*フィルタの洗浄を適宜実施。

- ・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。
- ・H25/8/8 12:55～ 6/15に多核種除去設備A系で発生したバッチ処理タンクからの水漏れについて、現在A系で実施している腐食防止対策をB系でも実施するため、同設備B系を停止。
再発防止対策を実施した上で、C系は9/27にホット試験を開始。A系は10月中旬、B系は11月以降を目処にホット試験を再開予定。
- ・H25/9/27 0:04 多核種除去設備C系のホット試験を開始。その後、9/27 22:37にバッチ処理タンクからスラリーを排出するラインにおいて流量が十分出ていないため、スラリー移送ポンプを停止し、循環待機運転に移行。
- 9/28 多核種除去設備の確認を行い、スラリー移送ポンプおよび移送配管(バッチ処理タンク1C、2Cの排出ライン合流部から循環タンク)に異常がないこと、また、バッチ処理タンクおよび移送配管からの漏れがないことを確認。また、バッチ処理タンク2Cの水抜きを行い、カメラによるバッチ処理タンク2Cの内部確認を行うため、9/28 16:04に、多核種除去設備C系統の循環待機運転を解除。
- 9/29 バッチ処理タンク2Cの水抜きを行い、カメラによる内部確認を実施したところ、内部に異物らしきものを発見・回収し、タンク内部を昇降する仮設の梯子を固定するために使用したゴムパッドと判断。その後、バッチ処理タンク内部には、タンク内部を昇降する仮設梯子固定用のゴムパッド(以下、「梯子用ゴムパッド」)が2箇所、仮設足場設置用のゴムパッド(以下、「足場用ゴムパッド」)が4箇所あり、合計6箇所のゴムパッドがあるが、梯子用ゴムパッドはテープで取り付けられており、その内1箇所が剥がれドレン孔を塞いだため、流量が低下したものと判断。そのため、残り1箇所の梯子用ゴムパッドについても回収。なお、足場用ゴムパッドについては、接着剤で固定されていることおよび取り付けられた状態に異常のないこと、さらに、バッチ処理タンク2C内にその他の異物が無いことを確認。
また、類似のバッチ処理タンク1C内部について調査した結果、足場用ゴムパッド(4箇所)は、接着剤で固定されていることおよび取り付けられた状態に異常のないことを確認。また、バッチ処理タンク2Cにおいてドレン孔を塞いだ梯子用ゴムパッドは無いことを確認。さらに、バッチ処理タンク1C内部に異物が無いことも確認。
- 9/30 2:38 バッチ処理タンク1C・2Cの水張り作業が完了し、準備が整ったことから、多核種除去設備C系の汚染水処理を再開。

< 5 . その他 >

[H4エリアタンクからの水の漏えい関連]

<トピックス>

- ・9/17～18 漏えいの確認されたH4エリア グループ No.5タンクのタンク底板部および側板1段目を除き解体。
- 9/19～ タンク内部の調査を実施中。
- <最新のパトロール実績(9/29)>
- ・高線量当量率箇所(+ 線(70 μ m線量当量率))は確認されず。
- ・目視点検によりタンク全数に漏えい等がないこと(堰内溜まり水箇所の漏えいを除く)を確認。
- ・9/28 22:45 頃 協力企業作業員がFエリアタンク(6号機北側)のパトロールを実施していたところ、5、6号機タービン建屋地下滞留水を貯水している2タンクの1段目と2段目の水平フランジ部より水のにじみがあることを発見。
その後、1段目と2段目の水平フランジ接合部ににじみがあるものの、床面に滴下がないこと、また、にじんでいる水をスマヤ法にて汚染測定し、バックグラウンドと同等であることを確認。また、念のため、当該箇所に仮設の受けを設置。

< H4エリア周辺のサンプリング実績 >

- ・有意な変動なし。
- ・今回、新たに採取した地下水観測孔 No.2-5 (No.2の山側)採取水(9/29 採取分)の測定結果は以下のとおり。
<地下水観測孔 No.2-5の測定結果(9/29 採取分)>
セシウム 134 :3.1 Bq/L、セシウム 137 :6.9 Bq/L、全ベータ :32,000 Bq/L、マンガン 54 :0.62 Bq/L、アンチモン 125 :26 Bq/L

<排水路・南放水口のサンプリング実績>

- ・有意な変動なし。

【タービン建屋東側の地下水調査 / 対策工事の実施状況】

<トピックス>

- ・1・2号機取水口間のウェルポイントおよび集水ピット(南)地下水から立坑Cおよび2号機タービン建屋への移送量は
9/30 0:00 時点で約 2,498m³ * 集水ピット(南)およびウェルポイントの総量

<地下水観測孔サンプリング実績>

- ・地下水観測孔 1-16 について、9/26 に採取した水のトリチウムの測定結果は、43,000[Bq/L]。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

- ・H25/7/1 ~ 拡散防止対策およびサンプリングは継続実施中。
- ・H25/9/17 ~ 地下貯水槽 No.3 の浮き上がり対策として砕石盛土を実施中。なお、砕石盛土にあわせて、南西側ドレン孔からの地下水の排水を適宜実施。
- ・H25/9/24 ~ 地下貯水槽 No.3 漏えい検知孔およびドレン孔の全ベータ値については、地下貯水槽の浮き上がり対策工事の再開に伴い、上昇傾向が継続している。引き続き、当該検知孔およびドレン孔の濃度変動を注視していく。

以上